

33. 「男であること、女であること」

2010年9月1日 社会福祉法人 江刺保育園

私たち人間は男と女によって性別されています。中には体と心が違う性を持っている人もいますが、ほとんどの人は男性の体と心、または女性の体と心を持ち、お互いにその性の違いを自然に受け入れることができます。昭和40年代ころまでは男らしさ、女らしさということが、求められていたように思いますが、それが徐々に失われてきました。

男女雇用均等法という法律ができ、社会の中で働くうえで男女の格差をつけてはいけない社会になっています。しかし、女性であっても、深夜の重労働をしても良いというのではなく、同じ労働を行う時、その待遇に男女の格差を設けてはならないということが本来のねらいです。しかし、生き物としての男性、女性として違いは明らかです。男は命を生むことはできません。女が危険な重労働をできる筋力を持っていません。この違いを無視しすべてを男女同じとしてしまうことはではなく、男子であること、女子であることをお互いに尊重し、その個人が自分の能力を十分に社会に還元できるような社会になるように制定された法律です。妊娠した女性が、職業についても、そのことがリスクになり職を失ったり、給与が減らされたりすることのないように、そして性別によって職業選択に制限がない社会になるようにというのがこの制度だと思います。この法律によって女性の社会進出がますます盛んになっています。このことが少子化に拍車をかけているという意見もありますが、結果的にそうなのかもしれません、しかし、大切なことが置き去りにされています。

わたしたちは、子どもたちに、性の違いがどうしてあるのか、私たちの社会はあまり伝えてきませんでした。生き物として当然あるべき姿が、変に歪曲され、本来あるべき男女の関係を歪めているような社会になっています。結婚が未来に命を繋げるための古代から培われてきた人間としての究極の文化であったのですが、性だけが特別に扱われ、ポルノが当たり前のように公然と汨瀝している社会になっています。どんな週刊誌にも当たり前のように女性のヌード写真があり、猥褻な記事が掲載されています。そして、この性を売り物とした産業が人間の欲望によってますます拡大しています。

これでは女性を女性として正しく見ることができないし、男性を男性として正しく見ることができない世の中になっています。子どもたちに、男であること、女であること、お互いに結ばれていることが運命づけられていること、そして、男と女が未来に繋げる命を生み出し、その命を育み育てるのが人間である。そのことに人間としての大きな喜びがあることを子どもたちに伝えてこなかったのです。私たちはこのことを自分の家庭を通して伝えていかなければならないのです。人間とはどんな生き物なのか、どう生きるべきなのか考えなければなりません。



《豚肉と大豆のかき揚げ》

4人分 豚肉 80g（下味みりん少々、醤油少々）、にんじん 20g、さやいんげん 20g、大豆 40g（水に浸しておく）、片栗粉 8g、塩少々、揚げ油、

《作り方》

- ① 豚肉は食べやすい大きさに切り、下味をつける。にんじん、さやいんげんは5mm角に切る。（野菜は他にピーマンやコーン缶詰等に代えても良い。）
- ② ボウルに①と大豆、小麦粉、片栗粉を入れ混ぜる。
- ③ 揚げ油を熱くし、スプーンで形を整え揚げる。

※噛む力が付きます。お酒のつまみにも最高です。

